

ひとひと
～支えあい、男女がともに築くまち～

杜のほほえみ

No.12(特別号)



3月4日開催「ほほえみふおーらむ2018」(八ヶ岳やまびこホール)

目次

ほほえみフォーラム	P2-3
春風亭鹿の子さんからのメッセージ	
家事シェアワークシート	P4
トークセッション	P5
職場部会	P6
イクメン座男会	P7
創業サークル	P8
女性起業者紹介	P9-11
地域部会	P12
地域活躍女性紹介	P13
就活女子会	P14
家庭部会	P15
4コマ/ちょっと楽しい高齢化の話	P16

男女共同参画都市宣言

わたしたちは

「互いを認め合い思いやる、健康で心豊かな「ほほえみの人づくり・家庭づくり」をめざします

「男女がともに働きやすい環境を整え、仕事と生活が調和する「ほほえみの職場づくり」をめざします

「性別や世代にとらわれず、交流と参画により躍動する「ほほえみの地域づくり」をめざします

「国際的な視点を持ち、子どもたちが未来に夢をもてる「ほほえみの社会づくり」をめざします



ほほえみふおーらむ
って何でえ



家庭部会の発表



ポスターセッション

2018 くまち~



会場



ワークシート表彰式

家事は家族事、
みんなでやる
じゃんけ



講演会



ワークショップ



ワークショップ



開会式



男女共同参画都市宣言文朗読



地域部会の発表

ほほえみフォーラム ～支えあい、男女がともに築

北杜市では、学びや研究、自然環境や子育て、芸術文化やスポーツなどさまざまな分野において、各種団体の活動が盛んに行われ「地域のチカラ」となっています。男女共同参画は性別や年齢差に捉われない「仲間づくり」の実践と「みんなでやってみよう」の姿勢が第一歩です。少子高齢化という大きな社会課題をはじめ、世の中が多様化する中で、『互いに認め合い、支え合う』という男女共同参画社会の実現は、様々な課題解決のベース、下支えの役割として求められています。今回の「ほほえみフォーラム」は北杜市男女共同参画推進委員会としても第6期2年間の活動の集大成であるとともに、地域で活動する皆さんが一堂に会して、また地元の中학생や高校生・大学生も参画してのアットホームな交流の場になりました。ふるさと北杜市のまちづくりにもつながるいいキッカケとなればと思います。

ご来場・ご協力ありがとうございました。



ホットオレンジ試飲
(家庭部会)



ポスターセッション



ワークショップ

大切なのは笑顔と感謝の言葉がけ

落語界は、圧倒的な男性社会です。700人近くいる落語家のうち、女性は10人ほどしかいません。絶滅危惧種なので皆さんに温かく見守っていただきたいと思います。

まず、師匠に入門を許されないと、落語家にはなれません。落語家には身分制度があり、最初のうちは見習い期間で、師匠の身の回りの世話等、落語には直接関係のない下働きの仕事をします。半年から1年ほどの下働きのあと、師匠に名前をつけていただき、入門を許されます。

次に4年ほど前座修行をしましたが、都内8カ所の寄席を毎日回って下働きしなければならなかったため、全く自由のきかない生活でした。男性中心社会のため女性用の更衣室もなく、男性の何倍も働いても認められず、好きで入った落語界ですが大変厳しい時代でした。

そして二ツ目に昇進し、なんとか自分の個性をアピールし、10年間稽古を重ねて徐々に仕事をいただけるようになってきました。平成22年に真打に昇進し

た時にはすでに40歳目になっていました。

30代後半のときに結婚・出産という人生の大きな転換期を経験しました。子供のいる女性落語家は前例がなく、落語を続けられるのか不安もありましたが、落語を辞めては自分でなくなってしまうと思い、腹をくくって両立しようと思えました。

臨月まで高座に上がり続けましたが、高齢出産で体はぼろぼろ、夫も自分も母親がいなかった二人きりの子育てです。普通の会社員である夫が仕事に行っている間は子どもと二人きりになり、精神も不安定になり、夫にあたるようになってしまいました。この時に夫がわたしの状態に気がつき、「これからは仕事も一生懸命やるけれど、育児も手伝うから何でも言ってくれ。言ってくれなければわからないから。」と声をかけてくれたのです。

この経験から「思っていることとは言わないと相手にはわからない。」と気づいたので。それからは何でも夫に言うようになり、イクメンに変身してもら

い、家族の絆も深まりました。

地域には女性の支援センターなどもあります。皆さんにはそういうた駆け込み寺を気軽に利用していただきたいと思います。

最近、結婚して子どもを産む女性落語家の後輩がだんだん増えてきました。彼女たちにもとにかく周りを頼って自分の身体を大切にするように声をかけています。

落語家という特殊な職業と子育ての両立には夫の協力が必要です。協力を仰ぐために大切なことは笑顔と感謝の言葉がけです。皆さんにもぜひ笑顔と感謝の言葉がけを周りに向けて欲しいと思います。

《春風亭鹿の子さんプロフィール》

落語芸術協会所属
平成8年に春風亭柳昇に入門。
平成22年に真打昇進。
女性誌「anan」読者が選ぶ「好きな女流落語家」で「NONO」に選ばれるなど、新進気鋭の若手女流の落語家として活躍中である一方、子育て真っ最中の一児の母



『家事は家族事』

家族皆がお互いを思いやって、皆で家事に取り組むことが「家事シェア」です。家事は生活の中に当たり前に存在しているため、どんな家事を誰がやっているか見えないものです。

また、家庭ごとに家族構成、仕事、生活のスタイルもさまざまのように、必要な家事もさまざまです。家庭ごとに違って当たり前。生活の中で、家族の家事を確認しあい、お互いに感謝しあうきっかけにつながってほしいという考えから、北杜市の男女共同参画推進委員会が家事シェアワークシートを作成しました。家族みんなで家事を確認しあうこと、それ自体がコミュニケーションと家事シェアへつながります。

今回は、市内の中学2年生とそのご家族に、「家事シェア」に挑戦するワークシートへの記入をお願いしました。どのワークシートも家族同士の思いやりと支えあいにあふれていましたが、特にす

ばらしいと思うワークシートを平成30年3月4日に開催された「ほほえみふおーらむ2018」で表彰しました。

家族で協力し、支え合えたで賞	本間 里桜 (明野中学校)
積極的にできる仕事をしたで賞	進藤 久慈 (須玉中学校)
兄弟で協力してがんばったで賞	植松 謙一 (高根中学校)
家族一丸となつてがんばったで賞	奥澤 颯大 (長坂中学校)
成長が感じられたで賞	田中絵里菜 (泉中学校)
楽しい食卓が目につかぶで賞	石田 福喜 (小淵沢中学校)
母の家事負担を家族で分けあえたで賞	檜山 美桜 (白州中学校)
家族みんなで支え合えるで賞	田添 莉明 (武川中学校)
自分で家事を見つけてがんばったで賞	山下 仁実 (甲陵中学校)

表彰者 (敬称略)



をしていましたが、結婚して二人の子どもの子育てをするようになってからは本社勤務にしていたいただきました。周囲の方の理解を得られるよう、考え方を切り替えることが必要だと思えます。また、企業に女性のライフステージを理解していただけるよう努めています。



難しいですが、若い真打の中には小さい子どもを楽屋に連れてきてお世話をしているケースもあります。

S：思っていることを積極的に家族に伝えて、家族の理解を求めました。

C：「周囲の理解」ということがキーワードのようですが…

思います。
C：高齢化の時代、仕事と介護の両立についてはどう考えますか。

K：現状では両立は難しいですが、時間の制約の中で少しずつでも働き続けたいと思っています。

N：もし介護の必要が発生したら働いてはいけないと思えます。だからこそ、働き方の選択肢を広げる必要があると考えています。

C：絶対的な答えは見つかるものではないですね。国や県、市が何かしてくれるのを待つのではなく、その時々に応じて自らの選択で決めていかなければならないということですね。

《トークセッション》

「女性の視点から見た働き方改革」

コーディネーター
パネリスト

石井悠久さん(北杜市役所総務部次長)

春風亭鹿の子さん(真打落語家)

野田和美さん(アルソア本社株式会社社員)

西鍋早葵さん(山梨県立大学学生)

コーディネーター(以降C)：最近よく『働き方改革』という言葉を目にしますが、働くことに対するイメージや考えをお話ください。

春風亭鹿の子さん(以降K)：特殊な職業、典型的な男性社会の中で働いているので、なるべく地域社会の人とふれあうようにしています。日本語はおもしろく、奥深い言語なので広めていきたいと思っています。高座にあがるだけでなく、ボランティアで子どもたちを対象にした学校寄席も開催しています。

野田和美さん(以降N)：独身時代は全国各地に出張して仕事

西鍋早葵さん(以降S)：学生として就活をしています。企業

への就職を目指す基準は、学んだことを活かせるかどうかということでした。働き方より労働時間や賃金は二の次に考えていました。

C：女性が働くことについて、

周囲の理解を得るために工夫したことはありますか？

N：ワークライフバランスについて、会社と話す機会をできるだけ作るよう努めています。その際、男性は奥さんを見るような見方をしてくれるので優しいです。女性も自分が子育てをしながら働いた経験があるからと受け入れてくれます。

N：働き方の選択肢がもっとたくさんあればいいと思います。例えば、時短など。

K：私は東京在住で、女性もみんな、自分を輝かせたくて外で働いています。しかし、一方で地域とのつながりは薄いです。互いに見守り、事件や事故を防げるようにすることが大切だと

K：女性に厳しい職種ですので



子育て応援企業制度への提言

北杜市においては、「男女がともに支え合うふるさと」を築くため、「ほくとほほえみ夢プラン」の策定や「北杜市男女共同参画都市宣言」を行い、家庭・職場・地域など、あらゆる場で男女共同参画の取り組みを推進しています。昨年度、私たち職場部会では、雇用政策や障害者政策等に携わり、厚生労働省から市に出向している石井次長にお話を伺いました。

『働きやすい職場づくりは、暮らしやすさや少子化対策の推進につながる。そして、育児休暇や有給休暇などの制度の推進についてまだまだという企業が多い。』

そういう企業に生活と仕事の両立（ワーク・ライフバランス）の実現や女性の活躍促進などについて啓発をしていく第三者的な立場の人が必要であり、男女共同参画推進委員会もその一つであるとのことでした。

そうした中、北杜市には子育て支援に積極的に取り組む企業・事業所を「子育て応援

企業」に認定する制度があり、子育てと仕事の両立を図り、子育て世代に魅力あるまちづくりを推進していることを知りました。

市長による、県内初の「北杜・イクボス宣言」を機に、その制度を見直すことになりました。

そこで本年度は、職場部会としても、子育て支援に積極的に取り組む企業・事業所の認定制度のより効果的な運用が子育て世代に魅力あるまちづくりや女性の活躍促進に資するものであると考え、制度の調査や内容の検討などを行いました。その検討結果をま



2月20日に市に提言しました

【北杜市子育て応援企業制度の見直しに係る提言】

○市及び認定企業・事業所の責務

市役所内及び認定企業・事業所内においては、生活と仕事の両立や子育て支援に関して、職員・従業員の声を反映させる場を創設するとともに、職場内部への周知を徹底していただきたい。

【ねらい】 市長や社長、管理職だけの取り組みではなく、組織全体として取り組む姿勢を示すことが必要である。

○認定企業・事業所の目標設定及び報告等

認定企業・事業所については、個々に取組目標を立てるとともに、年1回程度、その取組状況を市に報告（自己評価）するような制度設計をしていただきたい。

【ねらい】 認定してそのままにならないような仕組みが必要である。（例えば、市の子育て支援行事やほほえみふおーらむ等への積極的な参加も必要である。）

○取組みが顕著な認定企業・事業所への優遇措置等

市は、その取組みを広報紙、ホームページ、CATVで紹介するとともに、県内テレビ局・新聞社等にも広く情報提供されたい。また、活動が顕著な認定企業・事業所については、何らかの優遇措置を講じていただきたい。

【ねらい】 認定企業・事業所がモチベーションを維持できるような仕組みが必要である。（例えば、市の封筒へ子育て応援企業の広告掲載等）

とめて、平成30年2月20日に委員長、副委員長等で、市長に提言を行いました。

最近、北杜市は「住みたい田舎」ランキングで全国一になりました。提言には、「働きやすく暮らしやすいまち日本一」になればとの願いを込めました。

そして、平成30年3月4日に開催された「ほほえみふおーらむ2018」で、こ

の提言への取り組みについて発表しました。

これから多くの企業・事業所等に子育て応援企業制度へのご理解等をいただき、事業主と働く従業員との相互の協力で働きやすい職場づくりが進み、「働きやすく暮らしやすいまち 日本一」となればと思います。



ほほえみフォーラム2018にて



子育ては、家族をつなぎ、
未来をつくる

イクメンという言葉も一般的に使われる言葉になってきました。この言葉はもともと厚生労働省が平成22年に男性の育児取得率を上げる狙いを持って「イクメンプロジェクト」を立ち上げたことに始まります。そして、今は育児を楽しむ男性を指す総称として使われるまでになりました。

北杜市男女共同参画推進委員で、今子育て中の男性に集まってもらい、イクメンについて話し合いました。

司会者：イクメンという言葉にどんなイメージを持っていますか？

Eさん：小さい子どもがいる若いお父さんで、育児や家事にがんばっている人たちのことだと思えますよ。

Oさん：何らかの形で子どもに係わっているお父さんの総称じゃないですかね。

司会者：「あなたはイクメンですか」と、問われたらなんと答えますか？

全員：自分は実際に子育てや家事に関わっているから、イクメンだと思っていますよ。

司会者：家事としてどんなことをしていますか？

Oさん：家事に係わっているところ

でも、やっぱり仕事が中心です。それをしないと毎日の生活が成り立たなくなりますから。しかし、家にいるときは家のことをしっかりとやっています。

Eさん：仕事もあるので、毎日というわけにはいかないけれど、曜日を決めて早く家に帰りその日は家事をしっかりとすることにしています。

Aさん：家庭の中の仕事は分担されているところもありますが、分擔されていないことが多いですね。

Iさん：自分は積極的に家事や育児をやっているという意識はないけれど、気がついた夫婦のどちらかがやっています。分擔してそれだけやっていたのでは家庭がまわっていかないと思うので。

(具体的に家庭でやっている仕事もいろいろと出されました。食事作り、食事の片付け、食器洗い、掃除、洗濯、ゴミ出し、子供の送迎やお風呂に入れること、等々)

司会者：PTAや学校行事への参加は主にどちらがしていますか？

Aさん：今、PTAの役員をしているのでほとんど参加しています。

Iさん：予定外の仕事が飛び込んでくるのがよくあるので、妻任

せで、参加したことはほとんどありません。でも、学校のことはいく子どもと話をしています。

Oさん：学校の行事はできるだけ参加しようとしています。子どもとの話題作りにもなるし、同じ体験をすることはとても大事ですから。

司会者：最後にイクメンとはどんな人のことだろうと思いますか？

Iさん：働いている男性が育児をとることや、一時的にせよ仕事を放棄して育児をする父親こそがイクメンだといわれると、ほとんどの父親はその該当者でなくなるのではないのでしょうか。

Oさん：今の若い夫婦のほとんどは共稼ぎだと思つ。家庭ではそれぞれが出来ることをやっていく家族共同体の中の父親のことだと思つています。

Aさん：子供の工作などを手伝ったり、宿題を見てやったり、音読カードを書いてやったり、風呂と一緒に入ったり、日常のふれあいを欠かさないと、立派なイクメンですよ。

Iさん：人はそれぞれ違つし、個々の家庭もまたそれぞれだと思つます。家庭の中でお互いがお互いを思いやつて、家事や育児や介護な

ど出来ることをやっているとする姿勢を持った父親がイクメンなんだと思います。

Eさん：子どもがよりよく育つ家庭環境づくりを実践している父親こそがイクメンなのではないのでしょうか。

○座談会を終えて

限られた時間の中でしたが参加者の皆さんのご協力により有意義な話し合いになりました。家事など家庭内の仕事を父親がすることは大切なことです。しかし、イクメンを実践している皆さんが話してくれたのは、子どもを含め家族同士がお互いを認め合っていくことの大切さでした。家族が家事や育児などを協力して進めていく中でお互いを思いやる心や認めあう心が生まれて来ること。それが、子どもはもちろんのこと、家族の成長をも促してくれることを話してもらいました。「子どもは未来そのものだ」と言う人がいますし、そうだと思います。イクメンの実践は、家族をつなぎ、未来をつくる仕事なのだと思つています。強く話してくれた皆さん、忙し中、参加してくれた皆さん、本当にありがとうございました。

創業サークル



あなたの創業サポートします！

現しています。

また、市の補助金制度やワ
ンストップ窓口とも連携する
ことで、創業後も含めた手厚
い支援で長期的にサポートし
ています。

【創業支援カリキュラム】

4つの知識（経営、財務
人材育成、販路開拓）を身に
つける講義を受講できます。
希望によっては中小企業診
断士以外に、税理士、社会保
険労務士、ITコーディネー
ター等を専門家として講義に
参加していただくことも可能
です。

を教えてください。

東京で10年と少し、海外
では約2年美容師として活
動してきました。帰国後、
どこに住みたいかを考えた
時にまず浮かんだのが山梨
そして何度か訪れた中で一
番いいなと感じたのが北杜
だったので。実際に住ん
でみて、季節の変化をちゃ
んと肌で感じられるこの場
所は心地よく、ここを拠点
にお店をはじめたいなと思
うようになりました。

★**創業セミナーを受講しよ
うと思った理由、きっかけ
を教えてください。**

平成28年の7月に起業し1
年目の確定申告は自力で申
請したのですが、わからない
ことだらけでした。店舗を構
えるにあたり市役所のホーム
ページを調べていたらこのセ
ミナーのを知り、これか
らの為に勉強したいと思い
受講しました。

★**「創業サークル」をどこ
で知りましたか？**

北杜市役所のホームページ
です。

★**受講してみたいかがでし
たか？**

事業計画は頭の中になん
となくイメージはあったも
の言葉にまとめるのは難
しく、このセミナーはよく考
えるいい機会になりました。
売り上げ目標や細かい資金
繰り計画は持っていなかつ
たので、先生に指導しても
らったりデータを参考にし
たりしながら考えることが
できて本当によかったです。
これからこれを元に進めて
いこうと思います。

★**今回の班は女性が2人
でしたが、いかがでしたか？**

女性だからということでは
ないですが、事業計画や
数字はつい難しそうに思っ
てしまいます。そういう苦
手と思うことをこれからの
自分のために勉強できてよ
かったです。知らないことを
知ること世界は広がるの
で、これからもチャレンジし
ていきたいです。

★**サークルで学んだことは
今後役に立ちますか？**

本当にいい勉強になりま
した。今後これをちゃんと
活かせるように頑張ってい

いお店にしていきたいです。
★**これからの目標・創業を
目指す女性へのメッセージ
をお願いします！**

私にとってヘアカットを
することというのは「コミュニ
ケーションのひとつです。仕
事として分けるといっても
かほもつとライフスタイル
に近い気がします。お店を
持つことで、その感覚をもつ
と楽しみいろんな人と共有
できたらいいなと思います。
そういう動きが、これから
なにかはじめていたいな、変え
たいなと思う人たちにとつ
ていいきっかけ、わかりやす
いモデルになっていければ
いいなと思います。

お店紹介 GOOD SENSE



2018年5月上旬 OPEN 予定
北杜市小淵沢町上笹尾 2837
web : goodsensestore.com
mail : ohayo@goodsensestore.com
instagram : @goodsense_hata

北杜市商工会では「創業支
援事業計画」に基づく取り組
みの一環として、「創業サーク
ル」を開設し、創業者向けの
経営に関する知識習得や創業
計画作成を支援しています。
2〜5人と少人数から形
成するサークルごとに専門
講師を1名配置し、よりマン
ツーマンに近い細やかな指導
を実施しています。講義時期
や時間は受講者と講師とで決
めるため、利便性も高く、履
修率も100%、創業率もおおよ
89%（平成28年度実績）を

《参加者へインタビュー》 秦 理恵さん



★**北杜市で起業・創業しよ
うと思った理由、きっかけ**

夢を叶えるために！

これからの北杜市でも、あらゆるジャンルでの女性の進出をすすめて、ますます活躍する場を広げていく必要があると考えられています。

今年度の男女共同参画推進委員会では、北杜市で現在活躍中の女性起業家にスポットをあて、インタビュー形式でご紹介することにしました。

今回紹介する3名の女性は、業種も起業のきっかけも仕事への思いライフスタイルもまったく違います。

今後起業を考える方、これからの新しい働き方を模索している方、自分の夢を実現したいと考える方はぜひチェックしてみてください。

○台ヶ原珈琲

中山 きく美さん

○五味五感企画

五味 愛美さん

○森のようちえんピッコロ

中島 久美子さん



女性起業家紹介①



台ヶ原珈琲
中山きく美さん



甲州街道台ヶ原宿で主人と珈琲店を営み始め、半年が過ぎようとしています。

いつの日かと描き始めたのは、京都へ行く機会が増えた頃からでしょうか。カフェ巡りをしながら、第二の人生はこんな空間で働きたいと思うようになりました。家族の理解や協力もあり、仕事に専念できると日々感謝です。

「今日の営みの上に明日の工夫を、明日の工夫の上に明後日の新たな思いを」の言葉にあるように・・・足を運んでくださるお客様方に満足していただけるよう、日々精進していきます。

五味五感企画

主宰：五味愛美さん



《プロフィール》

静岡県出身
 1998年 神戸女学院大学人間科学部卒業
 公益財団法人キープ協会
 企画部入職
 2000年 環境教育事業部所属
 2011年 公益財団法人キープ協会退職
 婚活 de 八ヶ岳推進委員会設立
 FM 八ヶ岳ラジオパーソナリティー
 「五味愛美の八ヶ岳スタイル」
 2012年 五味五感企画設立
 2013年 帝京学園短期大学非常勤講師
 2017年 八ヶ岳観光圏
 観光地域づくりマネージャー

《五味五感企画》は、人間の感覚「五味」と「五感」と使いながら楽しもうと企画をしております。「五味」を刺激する食べること。「五感」を刺激する森の体験。八ヶ岳を舞台に活動をしています。

北杜市の女性起業家として活躍中の、五味五感企画の五味愛美さんにインタビューさせて頂きました。

○なぜ山梨、北杜市に来ることになったのですか？
 簡単に経歴を話しますね。高校時代、母が自作の竹のラゴで買い物に行き、紙・トレイの分別をし、自分でリサイクル業者に持って行くという生活を実践していました。

その頃の社会は、バブル期で大量生産、大量消費でゴミも大量廃棄されていた反面、リサイクルの推進やアマゾンの森林破壊などが問題となっていました。これはおかしー！矛盾しているの思いが強くなりました。

失われつつある森の木々、花について学びたいと思い、大学では植物生態学を専攻しました。環境について学びたい、特に女性に対する環境教育を学んでいく中で必ず清里のキープ協会の活動が取り上げられていました。

キープ協会の環境教育の仕事がしたい！と思いついて就職試験を受けました。当初は、企画部にて地域のイベント企画や、組織マネジメントなどを学びました。

○基本精神は？
 後に環境教育事業部にて自然環境を使った環境教育に携わりました。その間に北杜市の男性と結婚し、北杜市で生活して行くことになりました。

○起業するにあたり女性で良かったことは？
 地域の活動は、もっと地域の中で行うことが望ましいのではないかと思いついて退職後、五味五感企画を設立しました。

○名前の由来は？
 森の中の活動は、五感を使って行われます。自律神経も整つてますよ。

○起業する為に必要なものは何ですか？
 覚悟。

その他には名刺、インターネットのホームページ、ブログなど周知出来るもの。

○仕事場は？
 自宅の書斎、市内の図書館。図書館は、家事等に気を取られず、集中できます。平日は、ビジネスマンの姿も多く見られます。

女性だから残念だったことはひとつもありません。男性、女性、県内外のいろいろな視点が大事だと思います。

○これから起業する方へ一言お願いします。
 「覚悟」と自分が何をしているのか、店舗は無くてもホームページなど拠点となるものを作ること。地域のニーズ（社会課題）を取り入れて起業するところではないでしょうか。

五味さん、長い時間お付き合い頂きありがとうございます。お話を伺って起業するとはいかなかったけど、私にもまだ何か出来ることがあるのではないかなと思えるようなお話でした。これからも、ご活躍を期待しています。





森のようちえんピッコロ

代表：中島久美子さん

《プロフィール》

- ・横浜出身
- ・幼児教育家
- ・東京・横浜・山梨県内の幼稚園保育園に勤務後、「時間に追われることなく、子どもと向き合う保育がしたい。」と12年前に保護者と森のようちえんピッコロを立ち上げる。



○森のようちえんピッコロとはどんな幼稚園ですか？

保育者と保護者が一緒に作り上げていく幼稚園です。保育は保育スタッフが行いますが、保護者は全員が傍について仕事を分担し、協力しながら運営を進めています。

○子どもたちの日常生活を教えてください。

「森のようちえん」は「ペンマーカーが発祥の地です。園舎を持たず、自然と触れ合うために森へ出かけて行くスタイルです。ピッコロでも山の中や小川へ散歩に行きます。子どもたちは雨や雪の日も合羽を着て外で遊びまわっています。

また、日によっては子どもたちでカレーを作ったり、パンを焼いたり、絵を描いたり、折り紙を作ったりといろいろな活動をしています。火や刃物から遠ざけるのではなく向き合うことで、解決策や助け合いも自分たちで見つけ出していきます。

○どうして自分で幼稚園を作ろうと思ったのですか？

何ヶ所か幼稚園・保育園に勤めたのですが、保育士が子どもたちに全て指導をしていくことに疑問を持ちました。子ども自身が失敗を乗り越えていくことが人としてのベースではないか、自殺、引きこもり等、命に直結するこ

とが多い世の中で、命に直結することはどこで学ぶのか、それは自然の中が一番良いのではないかと思いました。

○全国にピッコロのような幼稚園他にもありますか？

森のようちえんは全国ネットワークもあり、全国に20ヶ所以上あります。年に一度は全国フォーラムも開催されています。

山梨県内にも何ヶ所かあり、2ヶ月に一度くらい意見交換をするなどの交流があります。また、日本全国からだけでなく海外から視察にこられる方もいらっしゃいます。

○幼稚園を始める時に問題点がありましたか？

人集めが大変でした。最初は一人のお母さんと二人で始めました。財政面では今も大変ですが、保護者の方たちと仕事を分担し、協力して運営しています。

○幼稚園を運営していく上で聞いたことはありますか？

あまりなかったですね。近所のお寺のご住職の所へ何度も足を運んでお願いし、裏山をお借りすることができました。ご住職の了承が得られたことで周囲にお住まいの方たちも納得してくださり、現在四人の地主の方から無償で土地をお借りしています。

○幼稚園を設立して良かった

と悪いことは何ですか？

まだまだ疑問ややりたいことは山ほどありますが、子どもたちがちゃんと育ってくれていることですね。

子どもたちが自分で疑問を見つけ、考え、行動していること。自分で問いを見つけて考えて行動できる子どもは自己肯定感があり、自分は何でもできるーと思えます。

以前「将来、世界の仕事がないー」と言っていた子がいました。その子はまず、世界の仕事とは何かを考え、図書館で調べることにしたそうです。ところが本には漢字が使われており、まだ読めないことに気づき、「わたしは漢字を勉強するー」と自分で方法を考えて卒業していききました。

○これからの目標はありますか？

目の前のことをちゃんとやって行きたいです。この仕事はおもしろいし大変だけど、やり甲斐があります。このようちえんは「こつなつたらいいな。」と思うことが実現されていくところです。そういう教育が広がって欲しいと思います。

○ピッコロの外部の人に求めるものは何ですか？

子どもは未熟ではありません。子どもは本質を考えながら生きてるので子供だまし

はききません。子どものもつ力を信じてほしいです。

そして、実際に現場で働いている保育士さんにもこの幼稚園を見に来て欲しいと思っています。

○これから起業したいと思っている方へのメッセージをお願いします。

頭で考えず、まず実行してみること。失敗を恐れずに、失敗してたくさん悩んで生まれてくるものが本物になるのではないかと思います。

○最後に、男女共同参画についてどのようにお考えですか？

わたしは結婚後10年間夫婦別姓にしていました。わたしは自立したいという気持ちと、結婚して女性だけ姓が変わることに不満があつて別姓にしていますが、やはり世間からの中傷もあり、夫の姓に変えました。

今でも、差別される側が自立していかなければならぬし、誰かが犠牲になつている社会は本当の幸せではないと思っています。だからこそ男女共同参画は必要であり、実現できれば日本はもっと良い国になると思います。

お忙しいところ、ありがとうございました

区長は女性だからできない ということはない 女性もできるように改善を

地域部会では、テーマにしたということですが。

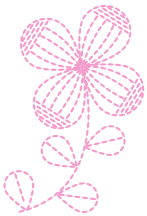
してきた「女性リーダーの推進」に関わる活動として、区長経験者である明野町の長田よし子さんにお話をうかがう機会を得ました。

長田さんは、ある年度末に次年度の区長として選考委員から指名されたのが始まりだといいます。しかし、この地区では月一回定例会を開催する際、区長夫人がお茶を出すのが慣例になっていたため、連れ合いを病気で亡くされている長田さんはお茶出しはできない、と当初断ったそうです。すると、それなら、お茶をやめようと話が進み、その結果、区長を務めることになったのだそうです。不都合の折には一部、男性副区長に代わってもらおうなどして、それまでのやり方を変えていき、二年間区長職を全う

したということですが。長田さんは、「女性だからできない、とは言いたくない。普通に男性がすることは、普通に女性もできる。」と語気を強めておられ、男女共同参画が社会の中へ広まるように願う気持ちが伝わってきました。

そのほか、長田さんは、「男性だけでは地域の活動がまわらなくなってきた中、女性自身も自立して役割を受けられる時期が来ている。いろいろな経験の中で人間として大きく成長するから。」と、女性の活躍への熱いエールを送ってくださいました。

女性リーダーの推進のため、おおいに参考になるお話でした。



《女性におすすめ就業・起業支援》

【北杜市】創業促進支援事業費補助金制度

<https://www.city.hokuto.yamanashi.jp/docs/1461212648-101.html>

北杜市の創業を促進し、雇用の創出、移住定住人口の増加及び地域経済の活性化を図るため、北杜市内において新たに創業する事業者への支援として、事業開始に必要な経費の一部を補助します。また、創業対象資金を借り受けて創業する場合には、利子補給と保証料を補助します。

北杜市雇用創造協議会

<http://workwork.jp/>

北杜市の雇用創出や地域活性化を目的として、事業者や求職者に向けて雇用拡大・人材育成・就業促進にかんする各講座やイベント等を企画・発信しています。

やまなし女性の応援サイト

<https://www.pref.yamanashi.jp/challenge/>

働く、キャリアアップ、起業などさまざまな分野でチャレンジしたい女性に対しての支援情報などを掲載しているサイト。講座やイベント、団体などの情報のほかにも細やかな情報が掲載されています。

山梨県立男女共同参画推進センター・ぴゅあ総合

男女共同参画社会実現のため、学習の機会と活動・交流の

場を提供しています。

また、女性のさまざまな問題に 대응するため、女性の専任相談員も相談に応じています。

(公財) やまなし産業支援機構

<https://www.yiso.or.jp/>

山梨県内で創業しようとする方や、創業間もない中小企業者、新事業の創出や経営革新に積極的に取り組む中小企業者に対し、助成金の交付やインキュベーション施設の貸出など、総合的な支援を行っています。

co+shegoto

<https://coshegoto.jimdo.com/>

co+shegoto (コ+シゴト) は、「地域の中に仕事を創りたい」と考える女性を対象にした実践的な起業を応援するプロジェクトです。

経営の基礎を講義形式で学ぶだけではなく、自分の軸となるコンセプトを固めるためのワークショップやプレゼンテーションも実施しながら、ここで知り合った仲間が繋がり、プロジェクト終了後も互いに学び合える関係性を育みます。起業したい女性たちと、起業を応援したい支援機関の人たちがつながる。起業を志す女性たち同士がつながり、互いに刺激を与え合う。そんなきっかけをつくる場づくりをco+shegotoを通して実践していきます。

地域活躍女性①

長坂町在住 堀内 直美さん



息子が小学校に入学したときから毎朝スクールガードを続けています。

「子どもたちに元気にあいさつしてほしい」「明るい社会になつてもらいたい」という思いから始めました。12年の間に地域のみなさまにも活動に協力していただき仲間も増えてきました。子どもたちには「おせつかいおばさん」と呼ばれています。平成19年3月に「あさがお通信」の発行を始め、今も毎年一回発行しています。通信には子どもたちとの会話・感謝の言葉・通学路での出来事等、毎朝、子どもたちと交わす言葉や感じたことを載せています。文章を考えると家族が全体の構成・カット等考えてくれます。毎年3月に発行し子どもたちに配布しています。

毎年小学生・中学生のスター

トの瞬間が楽しみで「今年ほどんな楽しいことが起るかな」と思うと気持ちがあわくわくしてきます。ただ、今は子どもたちが名札をつけていないため、声をかけて励ましてあげたいと思っても言えない淋しさがあるので、出来るだけ名前を覚えて声かけをしています。

子どもたちと一緒に通学路を歩いていると、近所の方々と交流が広がり、積極的に声かけをしてくれます。

「子どもたちを交通事故から守りたい」「元気な長坂っ子になつて欲しい」という思いから始めた活動も12年が過ぎ、おせつかいおばさんの方が子ども達から元氣とパワーをもらっています。

この活動は家族の協力なしには続けられませんでした。



通学途中の子ども達の様子が優しい語りで書かれています。

地域活躍女性②

高根町在住 平出 ユウ香さん



奈良県宇陀市出身。

山梨県の位置すら知らなかった10代の時に、母親の勧めで小淵沢町の専門学校へ入学されました。山梨の第一印象は、八ヶ岳おろしの強い風と広くてきれいな空とつうことでした。

結婚後も北杜市に住み、子供たちが大人になつても安心して子育てのできる環境を、次世代にもつなげたい思いから「North Tree」(ノースツリー)の名称で北杜市の子育てのきっかけ作りのサポート活動をしています。

モットーは「やってみよう精神」

市が発行する「北杜市子育てGUIDE BOOK」を参考に、「ほくく子育てSUNNY」を作成し、市の協力で保健師訪問時や市内の関係窓口

にて、子育て中の母親に配布しているそうです。この本は子育て支援センターの紹介や各子育てルームの内容が分かり易い文章や優しいイラストで紹介されています。イラストは市内のママさんたちが描いたそうです。

ノースツリーでは年間を通じて季節の行事や遊びを企画活動をしています。参加するママたちの沢山の知恵を共有しあい、また活動の参加は無理のないように声掛けをされています。

楽しく、はつらつと活動している姿が、お話を聞いている中で感じられました。ご家族の家事の協力にも感謝して、将来は法人化として起業したいという夢もお持ちの方です。

20代の平出さんのしつかりとした思いに感心しました。



「活躍したい女性」を「輝けるステージ」へ

人口減少・高齢化により労働生産人口が減少し、企業の人手不足は深刻な問題となっております。北杜市においても重要な課題となっております。

北杜市には人材を求める魅力ある企業や仕事が多くあり、働きたい女性もたくさんいます。両者のマッチングのため企画された「就活女子会」は、市内企業で働く女性と、これから働きたい女性が気軽にディスカッションできる女子会スタイルのイベントです。

平成29年11月18日に、北杜市・北杜市企業交流会・北杜市雇用

創造協議会の主催により初めて開催された「ほくと就活女子会」では、市内企業で働く女性8名と、求職中の女性15名が参加し、北杜市で働く魅力や子育てとの両立や、ライフスタイルにあった働き方など様々な質問が飛び交い、充実した意見交換の機会となったようです。

求職者の中にはお子さんを連れられたお母さんや、県外から参加された学生の方もいて、和やかな雰囲気の中で積極的にディスカッションしていました。

これからの北杜市の発展には、こういった活き活きとした女性

たちの活躍が必要であり、男性と女性が共に活躍できる場をこれからも広げていって欲しいと思います。



「ほほえみ料理教室」の 取り組み

平成28・29年度の家庭部会の活動について報告をします。

「ほくとほほえみ夢プラン」(男女共同参画推進プラン)の中で、北杜市における「家庭」分野において女性への偏った家事などへの負担を軽減することが課題であるとしています。

そこで、「家庭部会」では、男性も女性も共に家事・育児・介護などに携わるようにしていくために、料理づくりを通して家族が互いに認め合い、心身共に豊かに暮らすヒントを考える機会を提供する場として「ほほえみ料理教室」を実施しました。

平成28年度は、「ヘルシーな風邪予防にもなる料理」をテーマとして、明野総合会館で実施しました。

平成29年度は、「家族みんなで協力しよう！アウトドア料理(災害時にも役立つ)」として、栄養士の土屋さち子先生に講師をお願いし、フレンドパークむかわで実施しました。

「ビニール袋で炊くご飯」、「夏野菜のホイール焼き」、「野菜スープ

スパゲッティ」「簡単サラダ」など、災害時にもできる料理をみんなで協力して楽しくつくりました。

参加者全員に、料理教室終了後と約1ヶ月後の2回、アンケートをお願いしました。その結果、大人も子どももとても楽しんでいたことがわかりました。

また、ほほえみ料理教室の後、子どもが家事を手伝うようになったという回答が多くありました。

この「ほほえみ料理教室」で参加者に喜んで頂いたり、その後の生活に生かされ変容がみられたりしたことがわかり、取り組んできてよかったという思いと男女共同参画への手応えを感じることができました。



料理教室の感想

「大人の感想」

- ・協力して何かを作り上げるとより絆が深まりよかったです。
- ・会話が弾んで良いと思う。
- ・お母さんだけでなく、みんなで料理をすると早くて楽しくおいしく感じました。
- ・子どもとキッチンに立つ機会が増えました。
- ・お父さんのエプロン姿を子どもに見せてあげることができてよかった。

「子どもの感想」

- ・みんなでつくったので特に美味しかった。
- ・家族で一緒に作れた。
- ・家の掃除をしたいです。
- ・キャンプでご飯を作りたいです。

2017ほほえみ料理教室

災害時にも役立つ簡単料理 みんなで出来るレシピ

パッククッキング(真空調理)で作る「おにぎり」

作り方

- ①ポリ袋に米1カップ、水1と1/5カップを入れる。
- ②真空にするために、水を入れた鍋に①を袋ごと入れて下から絞り空気を抜き、しっかりコブ結びにしてから30分間おく。
- ③沸騰した湯に②を入れ、30分間ゆでる。その後火を止めて鍋の中で5分間蒸らす。
- ④③をトング等で湯から出し、ボールに入れる。ゆかりふりかけ等で味をつけて、ビニール袋で「おにぎり」を作る。

※災害時や、アウトドア料理でも簡単にご飯が炊けます。災害に備えて作ってみて下さい。

ドラマ男女共同参画

浅川輝夫



ちょっと楽しい高齢化の話

国民の4人に1人が65歳を超え、北杜市の高齢化率も、さらに36.5%になっています。

高齢になっても、充実した生活に欠かせない大きな要素の一つが、周囲の人との人間関係です。年を重ねても周りから好かれるような「魅力的な人」になるにはどうしたらいいのでしょうか。

人は誰でも「幸せになりたい」と思っているものです。でも、自分が本当に幸せになるためには、他の人の幸せも考えることが必要です。周囲の人を幸せにする人は「面白い人」ではないでしょうか。「一緒にいて楽しいし、この人となら幸せになれそうな気がする」という「魅力的な人」とは「面白い人」で、何となく笑える人や、その人がいると皆が幸せになるような人のことです。人への優しさや相手への思いやりを持って接すれば、面白くなくても何となく楽しさが相手に伝わるのだと思います。

シルバー川柳に「忘れえぬ人はいるけど名を忘れ」「お辞儀して共によろけるクラス会」「女子会と言って出かけるデイケア」などがありますが、その場を想像すると、思わず笑みがこぼれてしまいます。

また、若々しい頭脳や感性を持ちボケないためには、「(きょういく)と(きょうよう)が必要だ。」というので、「教育と教養があってもボケた人がいます。」と答えたら「きょういく(今日、行く所)」と「きょうよう(今日、用事がある)」ことだというので、なるほどと感心してしまいました。

もう一つ小話です。

夫「男女共同参画といっても、平均寿命は女性の方が長いじゃんけ。」

妻「男性の方が早く天国に行けるからいいじゃん。」

夫「天国ってどんな所ずら？」

妻「天国は、すごくいい所みてーだよ。」

夫「どうゆうで知ってるでー？」

妻「だって、行った人が誰も帰ってこないじゃん。」

夫「あ、ほうかあ。」



こんな楽観的な夫婦だったら男女共同参画も進むかもしれませんね。高齢化社会を迎えてもユーモアを忘れずに、しなやかに老いを楽しもうとする心が大切です。生きるのに苦勞は尽きなくても、生きること自体に感謝を見出す人は、幸福への道を開いていけます。幸福だから感謝が湧くのではなくて、感謝できるから幸福になるのだと思います。(推進委員 T.A)

編集後記

手にとって、「あれっ?!分厚い!!」と感じていただけただけでしようか。今号は、今まで6ページ構成だった「杜のほほえみ」が、なんと16ページとボリュームアップし、特に、地域女性の活躍推進を前面に押し出した記事が盛りだくさんの内容になっています。質、量ともに、読みごたえがあった。という感想が聞けることを期待しております。

第6期 北杜市男女共同参画推進委員 名簿

任期 平成28年4月1日～平成30年3月31日

委員長 小池英幸

副委員長 溝口暁美

部長 小澤 建二
 副部長 若尾 留美
 川合 弘人
 上野 義美
 松野 勝美
 植松 勝太
 竹田 久恵
 三井 和美
 志田 初枝
 進藤 和巳
 藤原 勝
 溝口 里美

部長 利根川久美子
 副部長 跡部 元
 宮川 文江
 上村 英司
 浅川 佳代
 小尾 正人
 小池 英幸
 矢野 望
 浅川 輝夫
 藤原 真理
 原 真樹子

部長 那波えり子
 副部長 三井 勇弘
 小林 春美
 小池 仁
 山本 千鶴子
 小林 大樹
 新海 進
 小林 進
 上原美奈子
 溝口 暁美

